

目的

震災前の原風景を取り戻すにとどまらず、新たな魅力あるまちの再構築「新生ならはの創造」に取り組み、楡葉町のみならず双葉郡の復興を先導する拠点を形成するため、**楡葉町復興計画<第二次>**に示された土地利用計画の**具体化**を図り、町の将来の絵姿とその実現に向けた道筋を示す。

主な検討項目

- ▶ 将来人口予測と土地利用上の課題
- ▶ 今後の土地利用の方向性
- ▶ 基本方針・基本計画（機能、規模）
- ▶ 整備推進に向けた方策（工程、体制等）

対象エリア

- ▶ 竜田駅東側
- ▶ 新たな街並み形成ゾーン
- ▶ 産業技術集積ゾーン・南工業団地

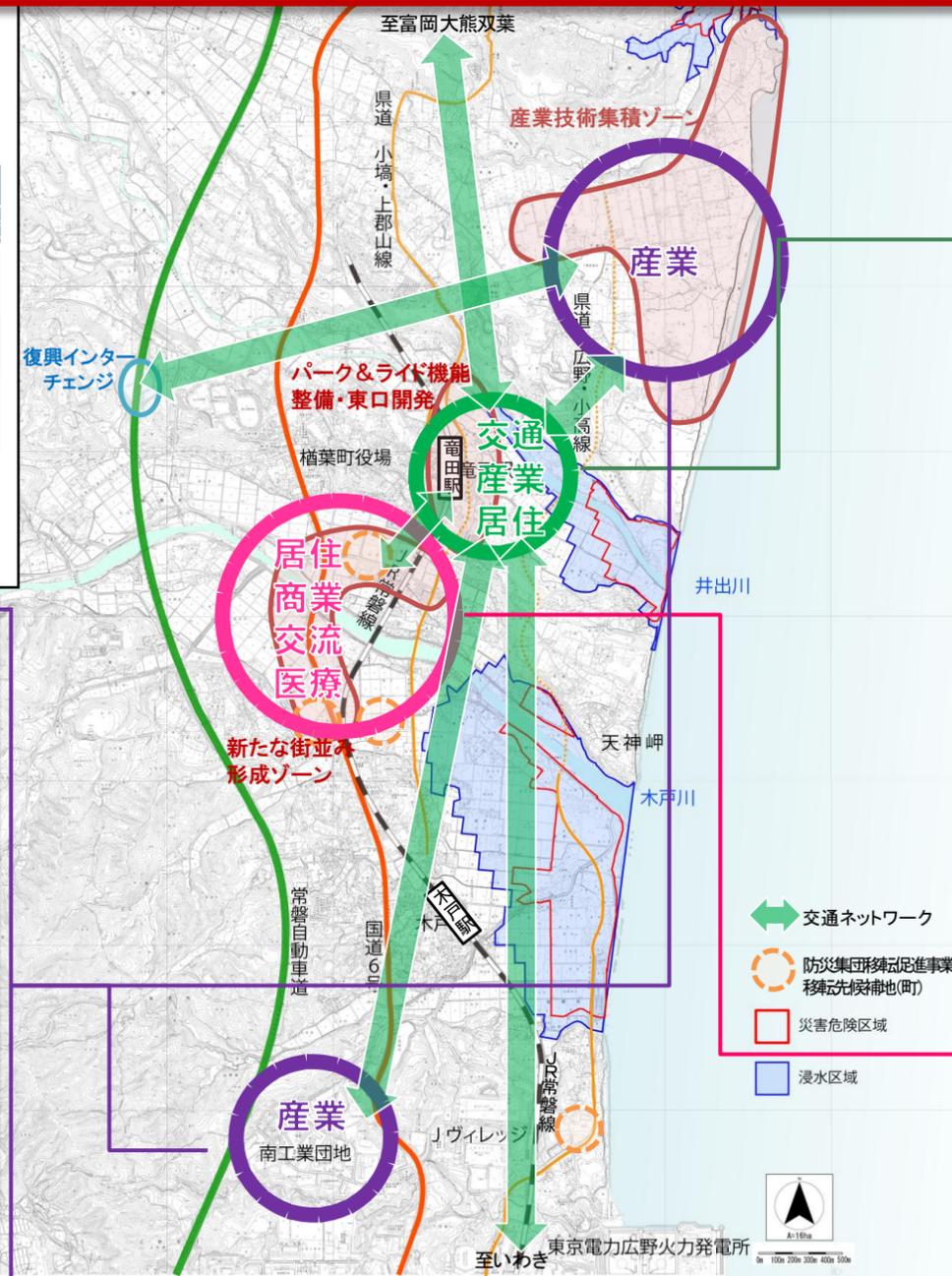
工程

対象エリア	工程※			
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
竜田駅東側エリア			企業宿舍開業予定	
コンパクトタウンエリア※			商業施設開業予定	
産業再生エリア				

※商業施設を中心とした一部のエリア

今後の土地利用の方向性

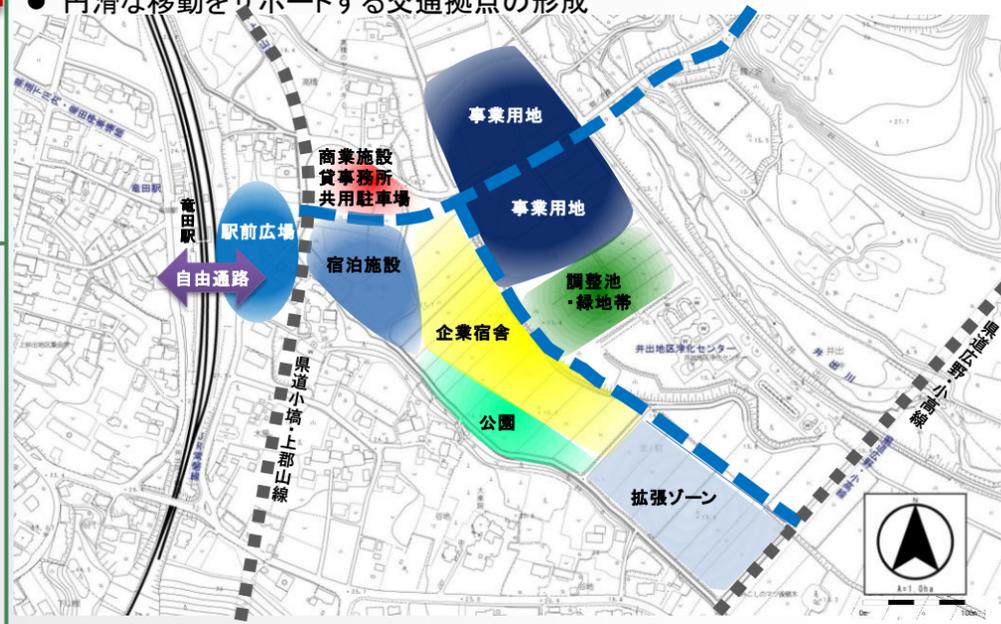
楡葉町及び双葉郡の復興を最前線で支える“多様な人々が集う生活・産業・交流拠点”の形成
～町民、長期避難者、復興従事者、郡外からの観光等来訪者等「活力」と「明るい未来」を実感させるまちづくり～



※計画図等については、今後の検討状況により、変更する可能性があります。

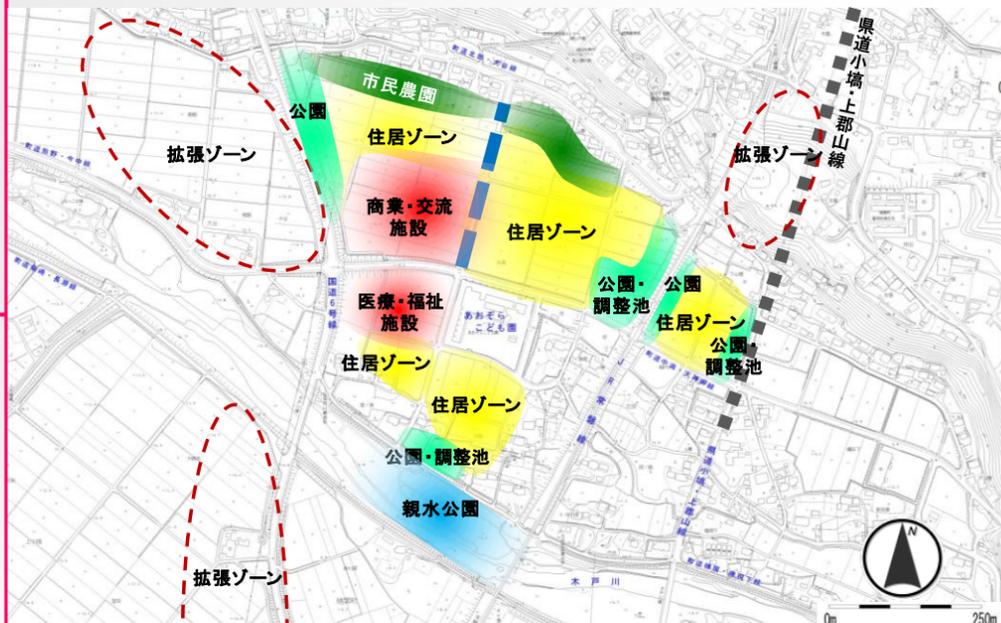
竜田駅東側エリア(パーク&ライド機能整備・東口開発)

- 事業所(事務所機能)エリアの形成
- 就業者・研究者のための居住・宿泊施設の形成
- 円滑な移動をサポートする交通拠点の形成



コンパクトタウン整備(新たな街並み形成ゾーン)

- 帰還町民・長期避難者・就業者・研究者のための居住・生活空間の形成
- 医療・商業・交流施設が集積した活力ある生活拠点の形成



産業再生エリア(産業技術集積ゾーン・南工業団地)

- モックアップ施設等に関連した廃炉企業等の集積する工業団地の形成
- 産業と連携する研究・実証拠点の形成とスタディツアーの推進
- 産業再生ゾーンと幹線道路を結ぶ道路ネットワークの構築



※アクセス道路となる県道広野小高線の整備供用が工業団地供用の前提となる計画案である。県道整備時期が未確定な事や対象用地の地権者数が多く調整に時間を要する点等を考慮すると、**他の候補地(南工業団地周辺)も並行して検討**することが必要

土地利用計画アクションプランの推進に係る課題

①迅速な事業推進

- 計画地の土地利用は農地が主であることから、整備にあたっては**比較的広いエリアの農地転用を早期に実施する手法**が必要(新制度による農地転用も一定の時間を要する)
- 産業再生エリアの根幹を担う県道広野・小高線は、早期に供用開始となるよう**優先区間を設定して整備**することが必要

②人的・物的資源の確保

- 大規模な3エリアの整備を同時に進めるため、他の行政機関からの派遣支援や業務委託により、整備推進に必要な**専門的なノウハウをもった人材の確保**が必要
- 同時期に大量に必要なことが想定される**建設用資機材の確保**が必要

③財源の確保

- 福島再生加速化交付金では、**住宅地造成のみでは交付金の対象事業とならない**ため、新たな措置の検討が必要
- 南工業団地において、帰還しない企業から**既存施設を取得する費用の財源措置**が必要

④事業者の誘致

- 土地利用計画実現に向けて、**各機関と連携した企業誘致活動**が必要
- 企業進出を加速させるための、**新たな優遇措置**が必要
- 廃炉研究等の国家プロジェクトの誘導による**長期的な予算の投入**が必要
- 廃炉関連企業の進出を促進するための、**廃炉関連事業の発注に関するルールの見直し**が必要